

②私立学校は自己の持つ責任の重大さに醒めて、事情の許すかぎり宗教々に貢献せねばならない。

宗門保育の信条を求めて

三田村 龍 全

一、宗教保育の意義について

A 幼稚園及び小学校の意見の比較検討

B 教育基本法に於ける「宗教々育」の解釈

二、仏教保育の意義について

三、日蓮宗保育をどう考えるか

1、日蓮聖人救世の御精神

a 社会的積極性

○慈悲忍難

○心を仏道に専らにして常に慈悲を行ずー（化城品）

○日蓮は：難を忍び慈悲すぐれたる事はおそれをもいだしぬべし

○日蓮は去る建長五年四月二十八日より今年弘安三年十二月に至るまで二十八年の間、又他事なく只南無妙法蓮華經の五字七字を日本国の一切衆生の口に入れんとはげむ計りなり。此れ即ち母が赤子の口に乳を入れんとはげむ

慈悲なり。

b 人間尊重Ⅱ生命尊重

○有情第一の財は命に過ぎず。（主君耳入抄）

○我れ深く汝等を敬うて敢て輕慢せず・所以はいかん 汝等皆菩薩の道を通じて常に作仏することを得べし（不輕品）

c 平和と幸福

○汝早く信仰の寸心を改めて速かに実乗の一善に帰せよ。然らば即ち三界は皆仏国なり……身は是れ安全にして心は是れ禪定ならん（立正安国論）

2、法華經の人間像

人間像とは人間の現実的諸相に即して修練を経て到達すべき人間の在るべき像^{すがた}をえがける理念である。法華經は人間を仏陀にまで高める道を開いた教えであり、この經の中に描かれる人間の現実相ははじめであるが、そこからその目標とする人間を探ることは、法華經の人間像を見出すことである。……教育的なねらいでその要点を抽出するにとめる。

a より高く正しくあろうとするものは常に対立と懷疑の道を歩む。（法華經展開の構造）

b 人間は常に絶対者に護られんことを潜在的に求めている。（仏所護念）

c 人間は善惡固定したものでなく、常に善き行為に喜びを持つ。（徳本を植える）

d 人間は心安らかならんことを求める。(心意泰然快得安穩)

e 人間は社会大衆の中に自から奉仕する喜びの心を持っている。(法華経に於ける「大衆」に注目する)

f 人間は崇高なるものを渴仰する。(寿量品)

g 人間は社会大衆の中にあつてその指導者となる可能性を持っている。(神力品)

h 法華経信仰者の居住する処はいづこも道場であり絶望がない―そこは悟りを開く場であり弘法の場でありそこで死するも悔なき場である。(神力品)

3、教育学的な人間像

4、教育基本法の人間像

四、宗門保育の信条とその依文

A 保育者の信条

1、自主性のある指導と研究を積み、常に前進する人格を養うことに努力する。(以下依文は略す)

2、奉仕の心と慈悲を以て母が子を抱く心を保育に生かす。

3、信仰を深め、身必の清浄ならんことをはげみ、本宗保育者の使命観に立ち、相互の交流結集につくすことにより自他豊栄の道がひらくことを信ずる。

4、感謝の心こそ大和の基である。凡ゆる場で明るくすなわに生きることこそ自他栄光の人生であることを確信する。

5、人間尊重の精神に徹し、差別なく人間の仏性を拝するけ

いけんな心を持ち、敬愛の生活に自らをみがかねばならぬ。

B 園児に与える信条

1、健康―丈夫で元気な良い子になりましょう。

2、社会―みんな仲よくあそびましょう。

3、言語―お話をよく聞きよくはなしましょう。

4、自然―いきものや花をかわいがりましょう。

5、音楽リズム―みんなでのたのしく歌いましょう。

6、絵画製作―おしまいまでやりとげましょう。

C 五戒の信条

1、不殺生戒―生きものを可愛がりましょう。

2、不偷盗戒―ひとのものを大切に。

3、不邪淫戒―ひとをいじめめる子は弱虫です。

4、不妄語戒―うそをつかないよい子です。

5、不飲酒戒―食べすぎ飲みすぎに気をつけましょう。

資料ノートの更らにノートにならざるを得ない。詳細の論を立てる頁がないことは残念であるが、保育は論ではなく場である。場の導きは使命観の自覚に基礎づけられた保育者の人格にあることを強調したい。使命観は主観的なものであるが、吾々に於ては法華経と御遺文をバックボーンとして樹立されるはずである。